

絆深めケア向上を

静岡大と医療従事者ら NPO設立でシンポジウム



写真を示しながら、患者との触れ合いの過程を紹介する遠藤院長(右奥)＝静岡市葵区のアイセル21

NPO法人「ヒューマン・ケア支援機構」の設立記念シンポジウムが25日、静岡市葵区のアイセル21で開かれた。機構は、医療や介護の現場で役立つ法知識や対人技術などを広めてケアの質向上につなげようと、静岡大文学部の教員と県内の医療従事者が設立した。機構のメンバーで、同市駿河区のたんぼぼ診療所の遠藤博之院長が基調講演した。遠藤院長は、がん患者らの緩和ケアの

事例を紹介しながら、「人と人の絆を深めるのがケア」と説いた。「本気でケアしようとするれば、つらく悲しい。援助者こそ、支えを必要としている。援助者が自分の弱さを自覚することが、他人への配慮や優しさ、癒やしを生む」と話した。

大学教員や音楽療法士などのメンバーもそれぞれ、「NPOに期待するもの」と題して講演した。県看護協会教育研修部の斎藤伸子専任教員は「看護師は安心や安楽を患者に与えるよう求められるため、さまざまなシレンマを抱えている」と指摘した。機構に対して「シ

レンマを整理し、現場でけ入れるか、考える場に直面する人の死をどう受ければと期待を寄せた。